

生きていることを実感！

長谷を訪れたのは2回目です。去年の田植えと今年の稲刈りに参加しました。山里で生まれ育ったので、長谷の山と田んぼの風景を見ると懐かしい気持ちになります。

今回はじめて稲刈りをしましたが、刃がギザギザの鎌で稲の束を刈って地面に置いていく作業が、とても楽しかったです。子供たちも一生懸命、稲を刈っていました。

稲刈りに熱中しすぎて、気が付いたら汗だくに…。クールダウンするため(?) 畦でビールを飲みながら、「私は今、生きている」と実感。やはり、労働後のビールは格別です。

稲刈り後は、楽しみにしていた柴北川レディースの美味しいお惣菜をご馳走になりました。ビンゴの後にレディースの皆さんに感謝の気持ちを込めて、バッジをプレゼント。喜んでもらえたようで、良かったです。

帰りにカボスのお土産を頂き、どうも有難うございました！来年も田植と稲刈りに参加したいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。(清角知子)



▼ 缶バッジデザイン
レディースの皆さんに感謝！



▲ 秋空の下での稲刈り
今年はみんなの田んぼ第2で



来ちみなあ 19号

「来ちみなあ」伝言板

次回「私のコダワリ」トークの予告

- 次回は、地域おこし協力隊の岩里さんに、協力隊に係るお手柄話、苦労話などをお話していただく予定です。
- トークの開催については、年明けの1月頃を予定しています。年明けの新年会を兼ねて行うことも検討していますので、ふるってご参加ください。

ながたに探検隊の再起動に向けて。

“昨年の轍を踏まない”との「愛する会」による入念な対応が功を奏して、初秋の台風被害にもかかわらず、10/21(日)深秋の晴天下で稲刈りが盛大に行われ、多くの参加者による楽しい交流が実現しました。

そんな様子に刺激されてか、「ながたに風」で二宮さんから「長谷探検隊パートII」再発足の呼びかけが。

長谷探検隊の復活に繋がるかは判りませんが、地元を見つめ直すきっかけにしたいと、今夏、長谷地区親子会を対象とする「身近な親子植物観察会」が開催されました。その際に、ガイド役を務めたのが地域おこし協力隊の岩里さん(次回トーク人)。そんな地域外の人々との連携も視野に入れながら、探検隊パートIIの再起動を進めていきたいですね。

(共助研による新探検隊がなかなか起動せず、大変申し訳なく思っていますが) (渡邊雪法・波木健一)

「来ちみなあ」は、柴北上の県道から北に入った山際にある「来ちみなあハウス」(和洋室5室、ダイニングキッチン、バス、トイレ付住宅)での活動を紹介する通信です。発行:「来ちみなあハウス」店子グループ

長谷探検隊を再び

一年のブランクを経て「稲刈り」が復活しました。1回目からお手伝いしてきた私達も、これほど嬉しいことはありませんでした。沢山の子供達も参加してくれて楽しいイベントとなりました。私達大人は、いつも子供たちに元気や刺激を貰ってきました。「長谷探検隊」が、いい例だと思います。

平成22年10月24日、東京都で開催された「第3回いい川いい川づくりワークショップ」全国大会で、準グランプリに輝きました。当時「柴北川を愛する会」が推進されていた「花いっぱいふる里づくり」事業の一環として組織されたのが「長谷探検隊」でした。旧長谷小学校の児童らで構成され、長谷の歴史や地理、柴北川の水質検査や水棲生物の調査などを行い、地域に親しむ活動をしていました。「子供達の活動成果を発表する場を作ってやりたいなあ」と言う事務局長の一言がきっかけで、大会参加が決定しました。



隊員であった娘に、活動のことや長谷のことを聞いてみました。「自然が多く、歴史のある長谷やけん良い体験ができたんやろなあ。田舎やけど、いい所で長谷は」という返事が返ってきました。今現在も「長谷愛」を持ち続けていることに驚くとともに、感心しました。「柴北川を愛する会」が推進してきたプロジェクトは無駄ではなかったと実感しています。

しかし、最近は地元の子供達との交流の場がなくなったことが淋しく、以前のような活動の場を提供してあげられないものかと思っています。地元小学校が廃校になったり、少子化等問題はありますが、今一度「長谷探検隊パートII」の発足を願ってやみません。あの素晴らしい体験と感動を私達だけではなく、今の長谷の子供達や大人の方にも実感していただきたいと思います。

どうか、再び、長谷探検隊を！！

(黒松ファミリー青年会:二宮隆三)



県道沿いイチョウも秋の装い